

toVO トウオ
PLUS

www.tovo2011.com

SEASON 4

No.039 - 100号まで、残り61家族、61ヶ月

黒寿司



NO. 039

あおもりの100家族、わたしたちのこれから。

20150611





今号（40家族目）のご家族▶
森 智史さん・良江さん・空智くん
今井 宏子さん・ミツ子さん
ペットのタロウ

撮影場所▶大黒寿司（青森市）青森県青森市新町1丁目2-6

●2011年3月11日のこと、憶えていますか？

▶良江さん「お互い職場でしたね。私は市役所勤めで、避難所になる体育館の手配なんかをばたばたやって。そして実は旦那が六ヶ所に勤めてるんです。再処理の担当なんだけど、やっぱり大変だったみたい。」

▶智史さん「停電で真っ暗になった中、異常がないかの点検をしましたね。電車通勤なので帰る手段もなかったし、重要な作業だったしでなかなか帰れませんでした。そのうち非常用発電に切り替わって、テレビで宮城とかの津波の様子がわかったんですが、本当に日本で起きてるのかって信じられませんでした。」

▶良江さん「実家が駅前の寿司屋で、私は近くのアパートに住んでいました。その日の夜は、もちろん実家で家族と過ごしました。ご飯はとにかくナマモノと酢飯の処理！結果的に海鮮丼になって、豪勢だなんて思われるかもですが...、ほんとそれしかなくて(笑)」

●心境や生活の変化はありましたか？

▶良江さん「気持ち的に震災後の方が辛かったです。日々メディアから入ってくる情報に負けてパニックになって。家族や家を失ったとか重い言葉が押し寄せてくるのに、そのうちのテレビに映る場面しか自分は把握できてないっていう、なんだろう、根拠の持てない感じが耐えられなかった。義援金を募る番組やイベントも、この人たちは本当に現地の状況をちゃんとわかってるのかなとか、お金だけ集めて、『はい、いくら送りました。おしまい』っていうのもどうなのかな？とか、人間不信みたいな感じにもなっていました(笑)市役所で順番に現地へボランティアしに行けることになって、その時の精神的な辛さとか、自分の目でちゃんと見てきたいっていうのを話したら、順番を優先してもらえたんです。それで一週間、看護師さんの手伝いなどをしてきました。現地は津波の被害にあった区域と、そうでない区域が信じられないくらいきれいに分かれてたし、あらゆるところで葬儀があって、ボーリング場に遺体がたくさん安置されてて。現実と非現実が一緒なかんじ。そういった光景は悲しかったし、怖かったけど、自分の目で見たことだから現状として、しっかり受けとめられて、思ったよりも落ち着いた気持ちでいられました。早くこの人たちの家族が見つければいいなって。

あとは旦那の仕事に関してですね。六ヶ所はマニュアルが厳しくしっかりしてるんですが、それ

でもあることないこと言われて。旦那さんのお仕事は？って聞かれて、ああ、答えづらいなあ。って。サラリーマンですって。私、バンドをやっていて、バンド仲間にも原発関係の仕事してる人っているんですけど、原発反対ライブとか声がかかっても出られないって。自分の仕事を人に言えない。ただ会社に勤めてるだけなのに。原発が良いか悪いかなんて言えないですけど、勤めてる人達は何も悪くないのになあって思います。」

●感受性が強いんですね。他に変わったことはありましたか？

▶良江さん「震度の小さい揺れがあっただけでも思い出してパニックになりかけたりします。職場で他の人はフツーに仕事してるんですよ。震度3～4くらいの揺れで、あー地震だ、って。それが信じられなくて、でも周りはこのくらい大丈夫とか言うんですよ(笑)だって逃げなきゃ死ぬよ！？って思うんですけどね。どうしてそんなに余裕なんだろう、怖さがわからないんだろうってちょっと思ったりもして。という悩みを旦那に相談したら、あんまり人に話さない方がいいよ、頭おかしいって思われるよ、って...(笑)何があってもおかしくないんだって思ってる人の方がうまくやれてる気がします。被災した側の人とは、前よりももっと仲良くなりました。以前の付き合いであんまり交流する機会がなかった人とも頻繁に連絡取り合うようになって、1年に1回会おう！みたいな(笑)すごくうれしい、」

●10年後のイメージは？

▶良江さん「家族で、1日1日大事に生きたい。息子には何かあったときに人に優しくできる人間になってほしいと思います。皆に可愛がられてるからきっと大丈夫だな、力もちだし(笑)災害とかあっても、自分のことはいいから行けー！みたいな自己犠牲じゃなく、自分も生きるんだって気持ちを持ってほしい。それから、関東の方に避難して行ったバンド仲間とも集まって、またライブするのが夢ですね！」

【取材後記】取材をお願いする際、311の時のエピソード、気楽なかんじで構わないので覚えてること聞かせてくださいとお願いしました。私もなるべく気楽なかんじでお話するようにいつも意識していたんですが、被災地の人々の気持ちを人一倍感じられる良江さん、実は...と仕事についてお話してくれた智史さん。今、311の日がとても濃密に思い出されている！そう感じて、もう気楽さも出されたコーヒーを飲むのも忘れてメモ帳にことばを書きつけてました(笑)(今号No.038の撮影とインタビュー担当者：坂本 小雪)

【寄付総額】2011年6月～2015年4月30日まで「¥3,133,241」を、あしなが育英会「あしなが東日本大震災遺児支援募金」へ寄付することができました。ご支援に深く感謝致します。

【定期購読のご協力を!】1年間の定期購読を承ります。1,800円(送料・寄付含)／1年間(12号)です。このフリーペーパーは定期購読の皆様のご支援で発行されております。ご支援の程、宜しくお願い致します。ご希望の方は、ウェブショップ (<http://shop.tovo2011.com>) よりお申し込みください。